

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2019年6月5日

No.22

会社：昨年冬実績を基本として収入動向を勘案して回答する
組合：新人事制度最初の期末手当が抑制されることは許さない！！

— 2019年度 夏季手当第4回交渉報告 —

中央本部は、本日10時より夏季手当第4回交渉を行ない、会社はこれまで3回の交渉で組合の主張について社内で検討したとして、現時点の考え方について以下のように示しました。

- ①6月までの運輸収入については、コンテナが対計画98.6%、車扱は103.4%となり全体で99.1%となった。米中貿易摩擦の影響を受けて化学工業品を中心に減送となっている。
- ②昨年度は西日本豪雨等の災害の影響で大幅な減収減益となり、7年ぶりの純利益の赤字を重く受け止めている。今年度は輸送障害は少ないが、燃料費等の動力費の増、ベアを実施したことで人件費の増など、必要経費は増えており厳しい状況である。
- ③これまでの交渉における議論を踏まえ社内で議論してきた。災害の影響で逃げた荷物が完全には戻ってきおらず、厳しい状況であるが連結決算100億円の達成と鉄道事業部門の黒字化をめざしている。よって、夏季手当は基準額を「基準内賃金ベース」として現時点、昨年冬実績を基本として収入動向を勘案して判断したい。

要求の根拠としていた家族手当にはこだわる
経常黒字100億円をめざすのに抑制はありえない！！

会社の考え方に対して中央本部は、以下の点について主張しました。

- ①回答額について労働組合の主張を受け止めて会社で検討しているというが何を受け止めたのか。要求である家族手当を基準額から外すなど組合の主張に全く応えていない。
- ②中期経営計画2021のスタートにあたって、職場は欠員で悲鳴を上げているのに新規採用を2年間ストップさせた。また、働き度向上施策や手当削減が行われ、そして今年度の新人事賃金制度の導入である。不満や不安がある中で、それでも組合員は貨物労組の取り組みについてきてくれた。この組合員の苦勞と協力を何としても報いるため強い決意で交渉に臨んでいる。
- ③2年連続でベアを実施したが20年間で500円である。人件費が増えていると言っているがどれだけ増えているのか。500円ではこれまでの消費増税や物価上昇分には到底追いつかない額である。
- ④新人事制度の導入で家族手当が基準外賃金になっており、生活給である夏季手当に反映されないのであれば家族を養っている組合員は減額されることになる。社員のやる気を出すために導入した制度だが、現状をみれば不信や不満、不安がありモチベーションの低下を招くことになる。
(次ページへ続く)

- ⑤大幅な超過勤務や、4月から導入された新制服の不備や不具合などの対応に職場は苦勞している。的確な指示が出せないことは管理する側の經營責任である。
- ⑥社外向けには經營基盤が強化され災害があっても黒字が出せる会社になってきていると大きくアピールしているが、それを担っているのは我が組合員である。収入未達は極めて經營責任であり、そのことを理由に手当を抑制することは認めない。
- ⑦人事制度がスタートしたことで組合員は夏季手当に対して大きな期待をもっている一方、会社の将来に失望した若年退職者が後を絶たない。社員のモチベーション向上は必須であり、経営陣は職場の現実を直視し再考せよ。

組合員のみなさん！本日以降、夏季手当獲得の闘いは「山場の闘い」に突入します。会社は基準内賃金ベースとの考えを示しましたが、組合の要求は「基準内賃金+家族手当」です。このままでは多くの組合員の家族手当（扶養手当）分が減額となります。このような会社の姿勢を断じて許してはなりません。組合員が結集して職場から闘いをつくりだし、夏季手当満額獲得にむけた闘いを展開しようではありませんか！

中央本部は会社の手当抑制姿勢を許さず、夏季手当満額獲得に向けて最先頭に立って闘うことを決意し、第4回交渉報告とします。

以 上

次回交渉（回答指定日）は6月13日（木）です。